

# 読書のすゝめ

その13

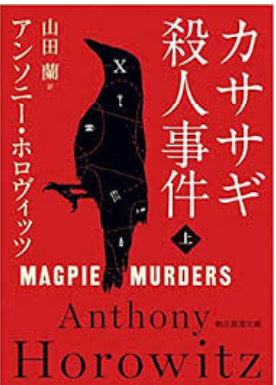
R1 6/12

## 新着図書から

関東もいよいよ梅雨入りし、これから鬱陶しい季節となりますが、雨の音を聞きながら読書はいかがでしょう。

### 『カササギ殺人事件』上・下 アンソニー・ホロウィッツ (東京創元社)

昨年度末ミステリランキングを全制覇(4冠)した作品。

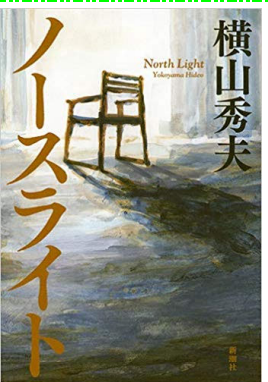


女性編集者の「私」(スーザン)は作家アランの新作『カササギ殺人事件』の原稿を読み始めるという上巻には、入れ子ミステリとして「カササギ殺人事件」が描かれる。ところが、その原稿には解決部分が欠落していた!そして下巻から「私」のもとに現実の事件が飛び込んでくる。

イギリスの美しい田舎の村を舞台とする「カササギ殺人事件」と、現実・現代社会で起きた事件とが複雑に融合した二重に楽しめるミステリー!! 犯人捜しも二度楽しめる。翻訳独特の読みにくさは否めないものの、アガサ・クリステイのファン必読の面白さ。



### 『ノースライト』横山秀夫 (新潮社)



一級建築士の青瀬は、信濃追分へ車を走らせていた。望まれて設計した新築の家。施主の一家も、新しい自宅を前に、あんなに喜んでいたので……。Y邸は無人だった。そこに越してきたはずの家族の姿はなく、電話機以外に家具もない。ただ一つ、浅間山を望むように置かれた古ぼけた「タウトの椅子」を除けば……。このY邸でいったい何が起きたのか?

### 『イシイカナコが笑うなら』額賀澤 (KADOKAWA)



浅間山を望む北からの光と「あなた自身が住みたい家を建ててください」という一言が清冽な謎を呼び、建築家ブルーノ・タウトの椅子が、物語に厚みを与える。様々な「喪失」が次第に「再生」へつながり、読後静かな感動に満たされる。

どの生徒にも慕われるスーパー教師の菅野。しかし、内心にはいつも虚しさが渦巻いていた。そんな彼の前にかつての同級生の幽霊、イシイカナコが現れる。彼女は13年前に受験に失敗し、彼の目の前で自殺したクラスメイトだった。

「ねえ、イシイカナコの“人生やり直し事業”に参加しない?」  
「思わず飛びついた菅野は、17歳の自分が生きる時間軸へ全くの他人として飛ばされた。そして同じクラスには生前の石井加奈子があり、幽霊のカナコには何やら思惑があるようで……。ほろ苦くあたたかい「二度目の成長」物語。

「やり直しなんてできないけれど、失敗がゆるされないわけではない。このメッセージが「今」を生きる私たちの心に響く。」

## 第1回ピブリアバトル バトラー募集! (賞品ありマス)

7月19日(金)午後 (面談期間中) 図書館にてピブリアバトルを行います。

バトラー(参加者)希望の生徒は図書館担当者に申し出てください。

### 【ルール】

- (1) 自分がおすすめる本について、その面白さを5分で紹介します。
- (2) それぞれの発表の後に参加者でディスカッションします(2〜3分)
- (3) 「どの本が一番読みたくなったか?」を基準とした投票を参加者全員一票で行い、最多票を集めたものを『チャンプ本』とします。